

アーカイブ

博物館

ギャラリー

museum

library

gallery

図書館

美術館

archive

memory institutions

デジタル時代の

〈記憶機関〉

memory institutions

芸術／大学における図書館・美術館・アーカイブ

京都市立芸術大学・芸術資源研究センターでは、この秋から冬にかけて、「芸術」「大学」「記憶機関 memory institutions」を主題とする連続研究会とシンポジウムを開催します。

「記憶機関 memory institutions」とは、過去の出来事に関する記憶や記録を、未来へ向けて継承するための、社会的・文化的な機関や制度を指すことばです。具体的には、〈図書館〉〈ミュージアム（博物館・美術館）〉〈アーカイブ〉、さらには〈ギャラリー〉なども、現在そして過去の活動や経験を現在と未来に伝えるための〈記憶機関〉と見なすことができます。

本企画は、これからの芸術にとって、あるいはこれからの芸術をつくる人材を育てる芸術大学にとって、記憶機関はどのようなものであるべきか?について、具体的に考えてみようという試みです。

近年あらゆることからのデジタル化が展開し、記憶機関のあり方だけでなく、私たちの記憶やコミュニケーションのあり方も、大きく変化してきました。新しい技術の実装により、知識を蓄積する基盤としてのインターネットが、ひとつの巨大な記憶機関となりつつあります。図書館や学術資源の電子化がすすみ、オンラインのギャラリーやミュージアムが続々と現れています。

しかし他方では、長期間の保存に耐える物質的記録の価値や、人間が交流し、協働し、共に創造的な活動に従事する物理的空間を再評価する動きもあります。COVID-19の影響下で、ますますデジタル - 分散 - 協働的な生活様式が編み出されていくなか、「手応えのある物質を共有する、開かれた物理的な公共空間」としての図書館、ミュージアム、ギャラリー、アーカイブなどの意義が、あらためて問われています。

記憶を継承し、次世代の創造活動を支えるインフラストラクチャーとしての記憶機関は、今後どのようなものとなっていくのでしょうか。そして人びとは、そこでどのように他者の記憶や経験をたどり、何を体験していくのでしょうか。さまざまな方々とともに考えます。

> スケジュール

● 第 29 回アーカイブ研究会

10月16日(金) 18:00 オンライン配信

「デジタル時代の記憶機関 -- イントロダクション」

佐藤知久

(京都市立芸術大学芸術資源研究センター／文化人類学)

● 第 30 回アーカイブ研究会

10月28日(水) 18:00-20:00 オンライン配信

「プラットフォームとしての図書館の役割

コロナ禍で露呈した物理的な公共空間としての弱さ」

佐々木美緒

(京都精華大学人文学部／図書館情報学・図書館員養成)

● 第 31 回アーカイブ研究会

11月10日(火) 18:00-20:00 オンライン配信

「美術館の資料コレクションは誰のもの?」

松山ひとみ

(大阪中之島美術館／学芸員・アーキビスト)

● 第 32 回アーカイブ研究会

11月16日(月) 18:00-20:00 オンライン配信

「世界劇場モデルを超えて」

桂英史

(東京藝術大学大学院映像研究科／メディア研究、図書館情報学)

● シンポジウム

11月28日(土) 14:00-17:00 オンライン配信

「デジタル時代の〈記憶機関〉

芸術／大学における 図書館・美術館・アーカイブ」

> 登壇者 (敬称略)

桂英史

佐々木美緒

松山ひとみ

森野彰人(京都市立芸術大学芸術資源研究センター所長)

司会：佐藤知久



オンライン配信

参加無料・申込不要

● 詳細はウェブサイトをご確認ください。ライブ配信後も記録映像をご覧いただけます。

<http://www.kcua.ac.jp/arc/information/86/>

主催：京都市立芸術大学芸術資源研究センター